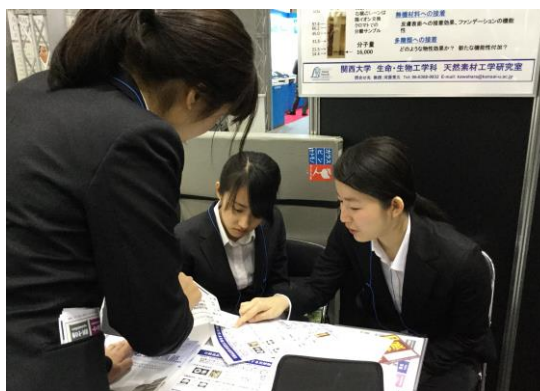


第 6 回化粧品開発展 アカデミックフォーラム 2016 に参加して

2016 年 1 月 20 日（水）に東京ビックサイトで開催されました第 6 回化粧品開発展 併設アカデミックフォーラムに、パネル展示及びプレゼンテーションを行いました。化粧品品質の安定化に寄与する天然物エキスという題目でしたので、天然物志向およびオーガニック化粧品に取り組まれている多くの企業の方々がブースに立ち寄っていただきました。お陰様で、1 日の展



展示会で説明の打ち合わせをする学生

示だけでしたが、用意しておりましたパネルの印刷物 150 枚などは、午後 3 時にはなくなっていました。多くの方々に興味持っていただき、ありがとうございました。

この素材は、エノキタケが鍋を食べた後に放置した場合、鍋にくっついて取れなくなることをヒントに研究を始めた‘エノキタケ由来熱水可

溶性タンパク質’です。このタンパク質含有エキスは、真菌類由来接着タンパク質‘ヒドロフォビン’似た機能性を有しています。このヒドロフォビンはカビの表面に分泌される疎水性の高い接着タンパク質で、トリフルオロ酢酸にしか溶解しません。そのため、お風呂場のカビ除去には塩素系製剤を使用されています。このヒドロフォビンは、界面活性剤効果もあり、髪の毛にも吸着するから、化粧品におけるシャンプーやヘアマニキュアに利用できることが BASF によって検討され、組み換えタンパク質にて製造されています。しかし、熱水に溶けない欠点があり、組み換えタンパク質としてしか製造できていません。

そこで、ヒドロフォビンと同じ機能（髪の毛吸着能、界面活性剤機能、発泡性など）であるこの熱水可溶性エノキタケ接着タンパク質が、多糖接着機能を有していることを今回発表しました。その機能を使えば、色んな物性のゲルを作成できると期待できると思います。このエキスの製造については、本年度（2016 年）中には工業化する予定です。